



地域おこし協力隊通信

八巻 枝美 編

第54回

新聞などでご覧になった方もいるかもしれませんが、第五小学校で「だいち2号に写ろう」プロジェクトを行いました。

始まりは今年2月。日本宇宙少年団/シロ分団長からの紹介がきっかけでした。ぜひ能代で実現したいと思い、この春に統合されて新たな仲間とスタートした子どもたちに、作業を通して交流を深めてもらい、絆を育み、自分が暮らすまちへの興味や関心を深めてもらいたいと思い、第五小学校にお願しました。

人工衛星に写るため、反射板の製作や、グラウンドに反射板をN字型に並べて文字を描くという「みんな」で行う作業がたくさんありました。

反射板づくりは5・6年生の皆さんに、撮影当日には全校生徒に協力していただきました。

約80のキロ彼方の人工衛星は見られませんが、撮影時には子ども館の方も駆けつけったださり、衛星から発信されている電波の受信音を無線で聞かせてくれました。

撮影は大成功。いただいた写真にはくっきりと能代の「N」が写っていました。皆さんの、ご協力本当にありがとうございました。



学校上空を通過する人工衛星に手を振る子供たち



協力隊の活動状況はFacebookで公開中！ <https://www.facebook.com/noshirokoryokutai/>
問合せ 市民活力推進課 ☎89-2212

このコーナーでは、まちの元気さんを紹介します。



No.93

能代に根づく会社を目指して

能代電設工業株式会社

代表取締役専務

山田 雄太さん(37歳)



●戻ってくるまではバックパッカーも千葉の大学を卒業後しばらくは契約社員として建設会社や石油会社などに勤めていました。半年働き、ためたお金で数カ月間バックパッカーをして、東南アジアやオーストラリアなど海外を旅する生活を続け、26歳の時に能代に戻ってきました。

●就職後も各地で活躍

実は25歳の時に一度この会社就職するため、帰ってこようとしたのですが、社長に「資格も何もないのだからこ



の会社には必要ない」と言われてしまい：笑。そこから1年間猛勉強し、晴れて就職。火力発電所のメンテナンスや電気、電気通信、機械器具設置工事で主任技術者や現場代理人を務め、市内だけでなく東北各地で経験を積み、36歳で現在の役職に就きました。

●広い視野で能代を元気に

さまざまな環境や人との出会いの中で感じたことは、一つのことにはこだわらず、広い視野を持って物事に取り組むことの大切さです。固定観



ラバーアドレスの導入や自動調光調色の照明など機能性の高いオフィス

念を持つたり、能代に足りないものを嘆いたりせず、能代の良さをピックアップして、より魅力のあるまちにする方法を考えることが大切だと思います。能代を盛り上げるため、仲間と一緒に今後も頑張っていきたいです。

●10年、20年先の将来を見据えて

将来の能代を見据え、地域に根づく会社にするために、人材育成に力を入れたいと考えています。市外や県外の良いところは積極的に取り入れ、能代を潤わせるような意識づくりをしていきたいです。

また、今ある建物や設備を長く大切に使い続けられるような新規事業にも挑戦しています。人口減少の中ではありますが、地域の皆さんがこれからもずっと安心・安全に暮らせるよう、知識や技術を集結させ、社員一同尽力してまいります。